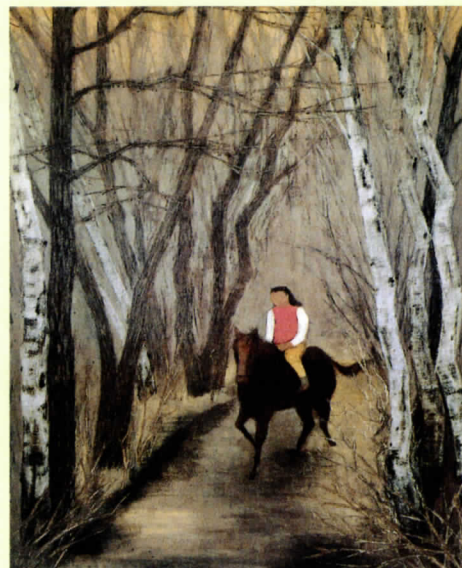


田辺市立美術館

本年度は3つの特別展と小企画展、館藏品展の5展示会を開催します。最初に開催する「両洋の眼」は、現代絵画の様相を俯瞰する展示会として好評を得てきましたが、今回の第20回記念展が最後の開催となります。本館・分館の2会場で同時に開催し、出品されるすべての作品を一度に展示します。7月から9月にかけて開催する「山本丘人展」は、田辺市出身の日本画家、稗田一穂の師でもあり、戦後、創造美術(現在の創画会の前身)を結成して現代的な日本画の表現を切り拓いた山本丘人の画業を回顧する展示会です。秋には国際的な銅版画家、浜口陽三の生誕100年を記念した「浜口陽三展」を開催します。和歌山県立近代美術館のコレクションを中心に、その足跡を回顧して紹介します。これら特別展の開催に加え、館藏品展として文人画、所蔵コレクションを紹介し、年明けには稗田一穂作品の特集展示を開催するなど、本年度も盛りだくさんの内容となっています。

熊野古道なかへち美術館

本年度は特別展・館藏品展それぞれ2回の4展示会を開催します。4月、田辺市立美術館で隔年に開催してきた特別展「両洋の眼」を当館でも初めて開催します。当館では毎年自然に関連する展示会を開催してきましたが、今年は加賀市立中谷宇吉郎雪の科学館の協力を得て、雪と氷をテーマにした作品を紹介します。この特別展「雪・天から送られた手紙」では、空から降りてくるふしぎな自然現象とその美に注目します。また、雑賀清子が描く空と雲もこの展示会であわせて紹介します。ワークショップも開催し、科学的な面の勉強もしてみようという子どもも大人も楽しめる夏休みのための企画です。10月からの館藏品展「野長瀬晩花展—晩花の花」では、晩花が生涯を通じて飽くことなく描いた花について、時代を追いながら紹介します。1月からの「渡瀬凌雲展」では、凌雲の風景画中の雲・雪・風・霧などの自然現象の描写について探ります。



山本丘人《来り去る時雨》 1967年 個人蔵

ORANGE

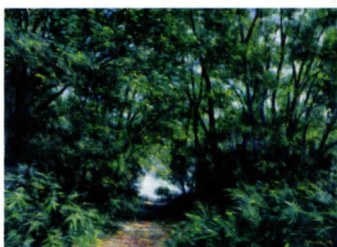
田辺市立美術館NEWS Vol.10



桑山玉洲《玉津島奥窟図》 田辺市立美術館蔵

絵画と出会う「この一点!」

田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館



山本真《風のエチュード》(田辺市立美術館展示)

特別展「2009 両洋の眼 第20回記念展」

会期 4月11日(土)~5月10日(日)

山本真は1964年、30歳のときからおおよそ2年間をアメリカに渡ってニューヨークのアート・スチューデント・リーグに学んだ。帰国後、堅実な描写によりながら子供のいる情景をシュールレアリスティックに構成した作品によって評価を高めるが、1990年代の後半ころから、光と影の表現が特徴的な、緑の風景の制作が主となり今日に続いている。

伝えられる自作についての「日常のなんでもない風景をじっと見つめていると突然そこに空気や風や影が日常とは違う言葉を交わし始めるような体験をもとにしています」という言葉が示すように、幼い頃からの習性だったという山本の凝視によって捉えられた、日常を超えた自然の光景がそこに描かれている。(学芸員 三谷 渉)

利用案内

田辺市立美術館 熊野古道なかへち美術館. Includes maps and contact information for both museums.

田辺市立美術館へのきもち

田辺市立美術館が開館して13年目に入り、いまはその分館になっている熊野古道なかへち美術館が開館して11年目に入っています。市内に二つの美術館があるのは、地方都市としては珍しく、誇りとすべきことです。

申すまでもなく、市立美術館は、脇村義太郎氏と弟の禮次郎氏の郷土に対する篤い思いと格別の厚意によって、美術館を建て、文人画と近代日本絵画の貴重な作品を収蔵することができたのです。なかへち美術館は、地元と関係の深い二人の画家を顕彰する目的で誕生したものです。二つの美術館はそれぞれ活動をつづけて、相当の成果を挙げたかと思えます。

私は、なかへち美術館に多少のかかわりをもっていった関係から、新田辺市になった平成17年から市立美術館の協議会委員を仰せつかりましたが、美術には門外漢で、現在の美術界の動向や一般の美術館の活動状況などは知るところがありません。ただ、地方史や地方文化に関心をもつものとして、市立美術館の開館以来時々訪れて展示を見せてもらい、特別展などの場合は、図録があればそれを求めるなり、贈られるなりして入手し、保存しています。

いま手許にある図録を数えてみますと16冊あり、いずれもそれなりに手堅く作成されていて、展示などの様子がわかりますし、絵画関係の資料として価値のあるものです。美術館に問い合わせたところ、私の所持していない図録が4冊ありますので、市立美術館として、今までに20冊ほどの図録を刊行していることとなります。刊行物にはほかに所蔵品目録や池田諒遺稿「原勝四郎のフランス放浪日記」があります。今までに見た展示や展示図録などをたよりに、私から見て、市立美術館が目ざしてきたのは、次のようなことかと思われまふ。

1. 自館の収蔵作品を日本の絵画史のなかに位置づけて、市民の鑑賞に役立てること。 2. 当地出身の画家や関係の深い画家の作品を紹介し、その業績を明らかにすること。 3. 自館の収蔵作品を足がかりに他の美術館や絵画団体などとの交流をはかり、当地での美術への関心を高めること。 こうした面での努力を評価しなければなりません、同時に少ない職員での負担が気になります。市民に親しまれる美術館、市外の人々にとっても存在感のある美術館にするために、周囲の理解と支えの必要を痛感します。(田辺市立美術館協議会委員 杉中浩一郎)

編集後記

当地の梅林が見頃の時に編集していますが、今号を発行する頃には桜が満開になる季節。今年は何所にお花見に出掛けようかと楽しみに計画中です。昨年秋の熊野古道なかへち美術館開館10周年記念特別展「野長瀬晩花展」には多くの方にご観覧頂きましたこと、この場をかりてスタッフ一同心よりお礼申し上げます。新年度展示会案内は、前々回(第8号)で切りとって携帯出来るようにしたところ、ご好評を頂きましたので今回も同様にしていきます。今号から、当館の活動への思いをつづけていただく「田辺市立美術館へのきもち」という新しいコーナーを設けています。次回(第11号)は10月に発行予定です。(本館 Y.M.)

田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.10

発行年月日:平成21年4月1日 編集・発行:田辺市立美術館/熊野古道なかへち美術館

作品紹介

桑山玉洲《玉津島奥窟図》

和歌浦の玉津島神社のそばにある「奥窟」(現在の塩竈神社)を描いた図です。洞窟状の岩の奥に社が祀られているのが見え、画面左下の漁夫二人が社(あるいは裏手に見える舟か)を指差している姿が描かれています。桑山玉洲(1746-1799)は和歌浦をはじめとする郷土の奇勝や景観を多く描いていますが、この図も彼が自身の画論の中で主張した「真景を描くこと」を実際に示した画といえます。

田辺市立美術館蔵

(主任 辰巳 充)

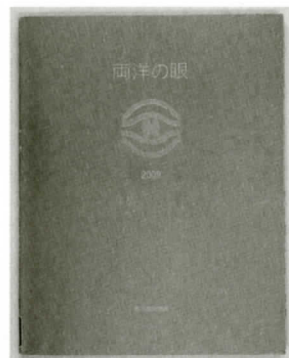
両洋の眼 第20回記念展

一線活躍する美術評論家、美術ジャーナリストによって構成される「両洋の眼委員会」がその年の最も注目される画家を選抜し、選ばれた画家は新作を発表して迎えるという「両洋の眼」展は、年一回の現代絵画の最も良質な部分を俯瞰することのできる、他に類のない展覧会として近年特に評価が高まってきました。当館でも過去7回開催し、年々人気が高まっているのを感じています。

しかし残念ながら今回の第20回記念展を最後に「両洋の眼」展に終止符が打たれることになりました。最大の理由は、長らく「両洋の眼委員会」で重要な役割をはたしてこられた、米倉守氏と藤慶之氏が昨年あいついで逝去されたことによる運営の困難です。お二人には当館で講演をしていただいたこともありますし、「両洋の眼」以外でも美術館の活動や作家、作品研究のうえで多くのご教示、ご助言をいただきました。2000年に開催した特別展「生誕百周年記念 脇村義太郎—美への好奇心」の図録に寄せていただいた米倉氏の「風鑑の余韻 脇村義太郎先生」は、当市出身の偉大な経済学者、絵画収集家への最高の讃辞ですし、2007年に当館で「両洋の眼」を開催した際の公開対談で、藤氏が発した画家元永定正氏に対する鋭い切り口の質問の数々と、そこから中味の濃い芸術談が展開した様子は忘れることのできないものです。謹んで両氏のご冥福をお祈りいたします。

これまで当館で「両洋の眼」展開催の折には、一度にすべての作品を展示しきれず会期中に一部の展示替えを行ってまいりましたが、今回は田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館の共同開催を行い、95点の作品を2会場一度に展示します。当地方で現代絵画の精華に触れる絶好の機会になることと思います。(学芸員 三谷 渉)

今回で終了となる「両洋の眼」、第20回記念展の図録、20年間の年譜、これまでの出品作品の一覧も掲載されている。販売価格2,000円。
※過去の図録も販売しています。



INFORMATION

会期 / 4月11日(土)~5月10日(日)
 休館日 / 毎週月曜日(但し5月4日は開館)・4月30日(木)・5月7日(木)
 主催 / 田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館・両洋の眼委員会
 協力 / 東邦アート・東京マルイ美術
 観覧料 / 田辺市立美術館:一般600円(480円)大学・高校生400円(320円)中学・小学生200円(140円)
 熊野古道なかへち美術館:一般210円(160円)大学・高校生150円(120円)中学・小学生100円(70円)
 ※ ()内は20名以上の団体料金
 土曜日は中学・小学生及び同伴する保護者や指導者の観覧料は無料です。

○「国際博物館の日」記念講演会を開催します。
 4月18日(土)午後2時より当館研修室(観覧料のみ必要、手話通話もつきます。)
 「日本絵画の二重構造—歴史・現実・将来—」
 瀧 悌三(美術評論家・両洋の眼委員)

展覧会紹介

田辺市立美術館

★特別展:生誕110年記念 山本丘人展 7月18日(土)~9月6日(日)

当館では一昨年の秋に、新しい日本画の表現を果敢に追求してきた画家たちの団体、「創画会」の60年を振り返る特別展、「創画会60年展」を開催しました。現在に続く「創画会」の出発点である「創造美術」を1948(昭和23)年に仲間たちと結成し、以後生涯にわたってリーダーとしての役割をはたして発展を導いたのが山本丘人(1900~1986)です。現代的な日本画の表現を切り拓いた第一人者であり、1977(昭和52)年には文化勲章を受章しています。丘人の生誕110年を記念し、その画業を回顧する展覧会を本年から翌年にかけて当館を含む全国4つの会場で開催します(当館のほかに浜松市秋野不矩美術館、茨城県天心記念五浦美術館、日本橋高島屋が予定)。

展覧会は作風の変化に沿って3つの章で構成されます。最初の章では、東京美術学校在学中に取り組み始めた人物表現から、モダンな構成で叙情的な風景の表現に移ってゆく初期の作品を紹介し、次の章では「創造美術」結成以後の、力強い構図と丘人一流の豊かな詩感が結びついた、図版の《満月夜》などの代表的な作品を紹介し、最後の章では晩年のやわらいた象徴的な表現の作品を、未完の絶筆に至るまで取上げます。

現代的な造形のうちに、詩情あふれる作品を描き続けた巨匠、丘人の芸術に接していただく機会になればと思います。会期中には本展覧会の監修にあたっていただいた、中村隆夫多摩美術大学教授の講演会も予定しています。

(学芸員 三谷 渉)



山本丘人《満月夜》1963年
箱根・芦ノ湖 成川美術館蔵

熊野古道なかへち美術館

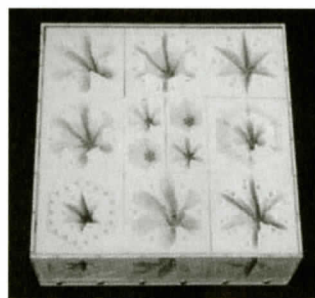
★特別展:雪・天から送られた手紙 7月1日(水)~9月6日(日)

中谷宇吉郎という名前に聞き覚えのある方は多いのではないのでしょうか。「雪は天から送られた手紙である」という言葉や、記念切手の宇吉郎を思い出される方もいるかも知れません。

宇吉郎は、1936(昭和11)年に世界で初めて人工の雪を作った学者で、随筆家としてもよく知られています。出身地である石川県加賀市では「中谷宇吉郎雪の科学館」がユニークな活動で宇吉郎と雪を紹介しています。今年の夏にはこの中谷宇吉郎雪の科学館にご協力頂いて、ちょっと変わった展覧会を予定しています。館蔵品展で紹介している雑賀清子が描く空と雲と、雪の科学館所蔵の雪と氷をテーマに表現された作品とを併せて展示します。

空から舞い降りてくるふしぎな自然現象とその美に注目しながら、ワークショップなどでは科学的な面の勉強もしてみようという欲張りな企画です。子どもから大人まで、一緒に楽しんで頂ければと願っています。

(学芸員 山本 泰代)



平井覚《ミクロコスモス・冬の一》
中谷宇吉郎雪の科学館蔵

平成21年度

展覧会スケジュール

■田辺市立美術館

H.21 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H.22 1月	2月	3月	
①特別展 2009 両洋の眼 4/11(土)~ 5/10(日)	展示替のため休館	②館蔵品展 文人画館蔵作品展 5/23(土)~ 7/5(日)	展示替のため休館	③特別展 生誕110年記念 山本丘人展 7/18(土)~ 9/6(日)	展示替のため休館	④特別展 生誕100年記念 浜口陽三展 (第1期) 9/19(土)~10/12(月・祝) (第2期) 10/17(土)~11/15(日) (第3期) 11/21(土)~12/13(日)	展示替のため休館 10/13(火)~10/16(金) 11/16(月)~11/20(金)	年末年始休館	展示替のため休館	⑤小企画展 稗田一穂の世界 (前期) 1/ 9(土)~2/11(木・祝) (後期) 2/20(土)~3/22(月・祝)	展示替のため休館 2/12(金)~2/19(金)	

■熊野古道なかへち美術館

H.21 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H.22 1月	2月	3月
①特別展 2009 両洋の眼 4/11(土)~ 5/10(日)	展示替のため休館 ※美術館開放講座	展示替及び資料整理のため休館	②特別展 雪・天から送られた手紙 7/1(水)~9/6(日)	展示替のため休館	展示替のため休館	③館蔵品展 野長瀬晩花展 —晩花の花 10/10(土)~ 11/23(月・祝)	展示替・資料整理及び年末年始休館	展示替のため休館	④館蔵品展 渡瀬凌雲展 1/23(土)~3/28(日)		

REPORT 野長瀬晩花展記念講演会—「日本画を超えた日本画家・野長瀬晩花」

【日時】11月15日(土) 14:00~ 【場所】田辺市立美術館 研修室

熊野古道なかへち美術館開館10周年を記念した「野長瀬晩花展」にあわせて、美術評論家で立命館大学教授の島田康寛氏をお迎えし、講演会を開催しました。晩花は国画創作協会(国展)の創立会員として知られる画家ですが、講演では特に国展創立に至るまでの日本画壇や晩花とその周辺について、詳細且つわかり易い解説をしていただきました。晩花は広い世界ではどのような位置に立ち、どのような交友関係を持ち、画業を積んでいたのか、初めてうかがう話も多く、興味の尽きない内容でした。

(学芸員 山本 泰代)



ホワイトボードいっぱい書き込んで解説する
島田康寛立命館大学教授

新収蔵作品の紹介

昨年度は4点の作品を購入し、965点のご寄贈をいただきました。ご寄贈いただいたのはすべて原勝四郎(1886~1964)の作品で、これまで当館がご遺族からお預かりしていたものを一括してお譲りいただくことになったものです。油彩画58点と水彩画、素描など907点の内には、大胆な筆触で自分の幼い娘を個性的に描いた《陽子像》(右下図版)などの代表的な作品も含まれます。当館の貴重なコレクションとして今後も保存、研究に尽力したいと思います。

購入した作品は藤島武二(1867~1943)の水彩画《ヴィラ・デステの池》(左下図版)、小林和作(1888~1974)の水彩画2点《紀州潮岬》(中央下図版)、《白馬山中》(制作年不詳/紙・水彩/37.2×55.8cm)と原勝四郎の油彩画《母子像》(1930年/紙・油彩/64.5×53.2cm)です。藤島は近代洋画発展の礎を築いた画家で、当館ではこれまでに油彩画とパステル画それぞれ1点を収蔵しています。《ヴィラ・デステの池》は藤島がイタリアに留学していた時のもので、近代日本の水彩画の高い水準を示す作品でもあります。小林は紀州の風景を制作の重点においた重要な近代の画家として、3年前に特別展を開催して紹介しました。作品の収蔵が課題になっていましたが、ようやく2点の充実した水彩画をコレクションに加えることができました。原の作品は第17回二科展に出品された作品で、先記の《陽子像》とともに、この時期の原を代表する作品の一つです。

(学芸員 三谷 渉)



藤島武二《ヴィラ・デステの池》 1908-09年頃
紙・水彩 21.2×27.8cm



小林和作《紀州潮岬》 1959年
紙・水彩 37.8×56.4cm



原勝四郎《陽子像》 1933年頃
紙・油彩 27.3×21.0cm